

秦野市の小学校で「わくわくモーモースクール」開催

1月30日、秦野市立北小学校で神奈川県酪農教育ファーム推進委員会が主催する「わくわくモーモースクール」（以下、わくモー）が開催されました。

わくモーは小学生1年生から6年生の全校児童（759名）を対象に牛とのふれあいを通じ、酪農という仕事を理解し、さらに命・食について学んでもらう目的で年に一回県内小学校で開かれる出前授業です。

先生役は市内の酪農家を中心に乳業メーカー、県酪農業協同組合連合会、J A、行政機関の計32名に加え、親牛2頭、子牛3頭が担当しました。

授業内容は各先生が校庭で搾乳体験、子牛のブラッシング、写生大会、牧場の仕事解説、家庭科室でバターづくり、体育館で牛乳関連商品説明などに加え、当課と畜産課の計4名は5、6年生を対象に各教室で「牛の体の秘密・命の話」の授業を行いました。授業は県内・市内の酪農情勢から始まり、牛の一生、牛の体の大きさや特徴、最後には出荷されてお肉になるということを、専門用語を使わないよう意識してできる限りわかりやすく説明しました。児童からは「寿命は何年?」、「どうして牛は白と黒?」などかわいらしい質問から、「オスはどうなるの?」、「ケガや病気になった牛は?」など命を頂こう我々にとっても扱いが難しいテーマにまで至りました。

今回のわくモーはPTAや小学校に隣接する保育園園児にも見学してもらい、児童の笑顔があふれるなか、盛況裏に閉会されました。当課としてもこのような取り組みに継続して参加し、県内畜産の理解醸成・振興の一助になればと考えています。